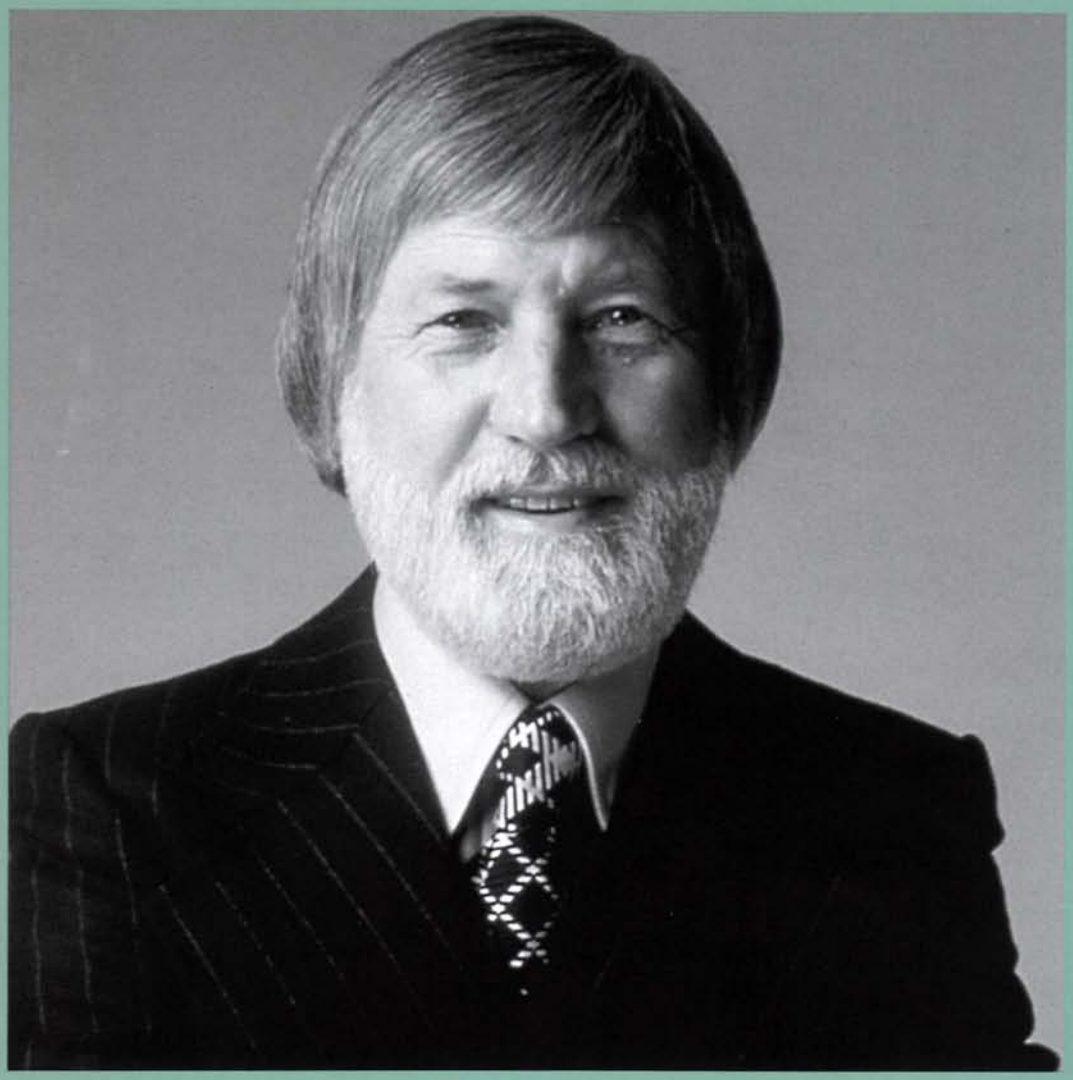
RAY CONNIFF

his Singers & Orchestra

レイ・コニフ

シンガーズ&オーケストラ

1991 JAPAN



Dear Friends of Japan:
I am deeply honored and pleased to have been invited to return to Japan after all of these many years. The last time I had the pleasure of performing in Japan was in the year 1975. I fell in love with the country and the people of Japan at that time, and I have been lookig forward to my return visit. I hope that you will enjoy listening to our music as much as my singers, musicians, and I will take great pleasure in performing it especially for you.

Domo Arigato

Sincerely,

Ray Conniff

HAPPINESS IS MUSIC

RAY CONNIFF
his Singers & Orchestra

1991·JAPAN

日本の皆様へ

久し振りに日本にお招きいただきたいへん嬉しく思っております。前回の来日は、1975年のことでした。その時私は日本と日本人の皆様へ恋をし、また日本へ行きたいと思っておりました。私のシンガーズやミュージシャンたちが皆様のために行う演奏を心ゆくまで楽しんでいただけますよう願っております。

レイ・コニフ

1991年•日本公演スケジュール

11 30 土 18:30•開演	京　都 KYOTO	京都会館第2ホール KYOTO KAIKAN DAI-NI HALL	主催•KBS京都、エースプロモート
12 2 月 18:30•開演	大　阪 OSAKA	サンケイホール SANKEI HALL	主催•FM OSAKA、大阪音協
12 3 火 19:00•開演	つくば TSUKUBA	ノバホール NOVA HALL	主催•ノバホール
12 6 金 19:00•開演	茅ヶ崎 CHIGASAKI	茅ヶ崎市民文化会館 CHIGASAKI SHIMIN BUNKA KAIKAN	主催•茅ヶ崎市民文化会館自主文化事業協会
12 7 土 18:30•開演	東京・瑞穂町 MIZUHO	瑞穂ビューパーク・スカイホール MIZUHO VIEW PARK SKY HALL	主催•瑞穂ビューパーク・スカイホール 瑞穂町教育委員会文化事業課
12 8 日 15:30•開演	岐　阜 GIFU	岐阜市文化センター 催し会場 GIFU-SHI BUNKA CENTER	主催•岐阜市
12 10 火 19:00•開演	東　京 TOKYO	東京厚生年金会館 TOKYO KOSEI NENKIN KAIKAN	主催•平山アート・オフィス、東京音協
12 11 水 19:00•開演	東　京 TOKYO	東京厚生年金会館 TOKYO KOSEI NENKIN KAIKAN	主催•平山アート・オフィス、東京音協
12 13 金 18:30•開演	高　岡 TAKAOKA	高岡市民会館 TAKAOKA SHIMIN KAIKAN	主催•(財)富山県教職員厚生会
12 15 日 18:30•開演	柳　井 YANAI	サンビームやない SUN BEAM YANAI	主催•柳井市、サンビームやない、KRY山口放送
12 16 月 18:30•開演	宮　崎 MIYAZAKI	宮崎市民会館 MIYAZAKI SHIMIN KAIKAN	主催•宮崎市、宮崎市教育委員会、宮崎市芸術文化連盟
12 17 火 19:00•開演	鹿児島 KAGOSHIMA	鹿児島県文化センター KAGOSHIMA-KEN BUNKA CENTER	主催•鹿児島県文化センター
12 19 木 18:30•開演	横　浜 YOKOHAMA	横浜市市民文化会館関内ホール KANNAI HALL	主催•横浜市市民文化会館関内ホール
12 20 金 19:00•開演	武蔵野 MUSASHINO	武蔵野市民文化会館(ARTE) MUSASHINO SHIMIN BUNKA KAIKAN	主催•(財)武蔵野文化事業団
12 21 土 19:00•開宴	東　京 TOKYO	ホテルパシフィック大宴会場(萬葉の間) HOTEL PACIFIC TOKYO	主催•ホテルパシフィック東京
12 22 日 15:00•開演	多　摩 TAMA	パルテノン多摩 PARTHENON TAMA	主催•(財)多摩市文化振興財団

PROGRAM

Part. I
ブロードウェイミュージカル特集

ニューヨーク・ニューヨーク NEW YORK, NEW YORK
センチメンタル・ジャーニー SENTIMENTAL JOURNEY
イン・ザ・ムード IN THE MOOD
オペラ座の怪人 PHANTOM OF THE OPERA
メモリー MEMORY
ワン ONE
エニイシング・ゴーズ ANYTHING GOSE
〔ショパンのノクターン〕より AN IMPROVISATION ON CHOPINS NOCTURNE IN E FLAT
〔愛の夢〕より AN IMPROVISATION ON LIEBESTRAUM
想い出はかくの如く＆メモリーズ・タグ MEMORISE ARE MADE OF THIS & MEMORIES TAG
ララのテーマ SOMEWHRE MY LOVE
泣かないでアルゼンティーナ DON'T CRY FOR ME ARGENTINA
風に吹かれて BLOWIN' IN THE WIND
煙が目にしみる SMOKE GETS IN YOUR EYES
ワルソー・コンチェルト WARSAW CONCERTO

Part. II
クリスマス・ソング特集

シング SING
イエスタデイ・ワンス・モア YESTERDAY ONCE MORE
トップ・オブ・ザ・ワールド TOP OF THE WORLD
黒い瞳 MY CHA CHORNIA
レッツ・ダンス LET'S DANCE
我ら集いて歌う HERE WE COME A-CAROLING
もろびとこぞりて JOY TO THE WORLD
きよしこの夜 SILENT NIGHT
クリスマスの意味 THE REAL MEANING OF CHRISTMAS
ウィンター・ワンダーランド WINTER WONDERLAND
ホワイト・クリスマス WHITE CHRISTMAS
ジングル・ベル JINGLE BELLS
クリスマスおめでとう WE WISH YOU A MERRY CHRISTMAS
ラプソディー・イン・ブルー RHAPSODY IN BLUE
ブラジル BRAZIL

Notes: It was never planned to perform "SENTIMENTAL JOURNEY". Ray wanted to pay tribute to Glenn Miller by performing "MOONLIGHT SERENADE". When this mistake was discovered, it was too late to alter it in the program booklet. As to the repertoire Ray wrote to me the following: "The program was changed slightly after the first night or so. We took 'Rhapsody in Blue' out because the program was long and also it was very tiring for the singers after the Christmas segment. But then we added a 1 minute harp solo on a song from 'Phantom of the Opera' (The Music of the Night) which was put in just before Ray's trombone solo on 'My Cha Chornia'."

都合により曲目変更の場合もございますので予めご了承下さい。

曲目解説

宮本 啓
［音楽評論家］

NEW YORK, NEW YORK・ニューヨーク・ニューヨーク

近年、ひと頃の「ショウほど素敵な商売はない」に代わってショウビジネス界全体のテーマ曲のようになったもので、そもそもは1977年のライザ・ミネリ主演ミュージカル映画「ニューヨーク・ニューヨーク」のテーマ曲としてフレッド・ウエッブ（詞）とジョン・キャンダー（曲）が作った曲です。レイ・コニフは'86年発表のアルバム「セイ・ユー・セイ・ミー」の冒頭でこの曲を演奏しており、最近最もお気に入りの１曲だそうです。

MEMORY・メモリー

今回のプログラムには、現代最高のミュージカル作家といわれるイギリスのアンドリュー・ロイド・ウエッバーの作品が沢山（他に「オペラ座の怪人」「泣かないでアルゼンティーナ（エヴィータ）」など）入っていますが、代表曲１曲といえばこの曲になるでしょう。T・S・エリオットの原作で1982年に作られた「キャッツ」のナンバーで、実に美しいメロディーを持った傑作です。'83年にバリー・マニロウの歌でポップス・チャートを上昇したこともありました。

SMOKE GET IN YOUR EYES・煙が目にしみる

1933年のミュージカル「ロバータ」のナンバーで、オットー・ハーバック（詞）とジェローム・カーン（曲）が作った失恋の歌です。オリジナルは舞台で歌ったウクライナ出身のタマラという女優のものだそうですが、聴いたことがない、とおっしゃる方が多いでしょう、筆者もそんな１人ですが。我々が親しんでいるのは、黒人グループ、ザ・プラターズの歌や、先頃映画「オールウエイズ」で自ら出演して歌ったJ・D・サウザーの歌あたりでしょうか…。

SING・シング

カーペンターズ・ナンバーをいくつか（「イエスタデイ・ワンス・モア」「トップ・オブ・ザ・ワールド」など）歌う今回のレイ・コニフですが、可愛い曲調のこの曲がいちばん受けるのではないでしょうか。日本でもオンエアされているアメリカの子供向け人気ＴＶ番組「セサミ・ストリート」のために、同番組の音楽担当ジョー・ラポーゾが作り、番組にゲスト出演したカーペンターズが気に入ってレパートリーに入れた、というのが真相のようです。カーペンターズの歌は1973年の全米チャート３位です。

WHITE CHIRISTMAS・ホワイト・クリスマス

クリスマスに欠かせない名曲は沢山ありますが、この曲が欠けたらどうにも格好がつかないものになってしまうのではないでしょうか。1942年の映画「スイング・ホテル」の主題歌としてアーヴィング・バーリンが作詞作曲、アカデミー主題歌賞を獲得、以来その時のビング・クロスビーの歌が“世界じゅうで最も売れた曲”（ギネスブック）というほどよく売れ、よく聴かれています。白い（雪の）クリスマスは、私達の生活ではそう簡単にはお目にかかれるものではありませんが。

イン・ザ・ムード・IN THE MOOD

終わりそうで終わらないラストの部分がとても有名なスウィング・ナンバーで、グレン・ミラー・オーケストラの十八番として知られます。黒人のサックス奏者で、編曲者でもあるジョー・ガーランドが1939年に作曲、後年アンディ・ラザフの詞が付いてヴォーカル曲としても通用しています。'84年に映画「瀬戸内少年野球団」の主題曲になって、日本だけの話ですが、リバイバル・ヒットを記録したことも忘れられません。

ララのテーマ・SOMEWHERE MY LOVE

ヒット・チャートからレイ・コニフを語る場合、筆頭にあげなければならないのがこの曲です。1966年８月13日付ビルボード誌で、チャートの９位まで上昇し、この曲をタイトルにしたアルバムは堂々ミリオン・セラーを記録したのですから。曲は'65年の映画「ドクトル・ジバゴ」の主題歌で、ジュリー・クリスティ扮するヒロイン、ララのテーマとしてモーリス・ジャールが作曲しました。ポール・フランシス・ウエブスターの英詞が付いたのは映画公開後のことです。

ワルソー・コンチェルト・WARSAW CONCERTO

イギリスのリチャード・アディンセルが1941年のイギリス映画「危険な月光」の主題曲として作曲しました。“ワルシャワ協奏曲”という曲名や、この曲調から、しばしばポップ・クラシカル曲のように誤解されますが、分類すれば映画音楽ということになります。どちらかといえば難曲の部類にはいる曲でしょうが、レイ・コニフにとっては、こんな曲こそ挑戦しがいがある、といったところでしょう。

きよしこの夜・SILENT NIGHT

讃美歌第109番としてお馴染みのキャロルでしょう。もともとはオーストリアの曲で、1818年に教会の司祭ヨーゼフ・モールが詞を書き、教会のオルガン奏者だったフランツ・グルーバーが作曲したものです。曲が完成したのがその年のクリスマスの朝だった、というエピソードがありますが、名曲につきものの後から生まれた“お話”かもしれません。きよしこの夜、星は光り、すくいの御子はまぶねの中に、ねむりたもう、いとやすく…。

ブラジル・BRAZIL

サンバを代表する名曲、ということはボサ・ノヴァのルーツともいえるわけですが、ブラジルのピアニストで、作曲家でもあるアリー・バゾーロが1939年に作曲しました。“ブラジルの水彩画”というポルトガル語による原題が付いていますが、ブラジルの素晴らしい自然と人間（の調和）を描写したものです。もっとも、曲調は水彩画よりはもう少し色濃い油絵に近いものがあるように感じられます。

RAY CONNIFF

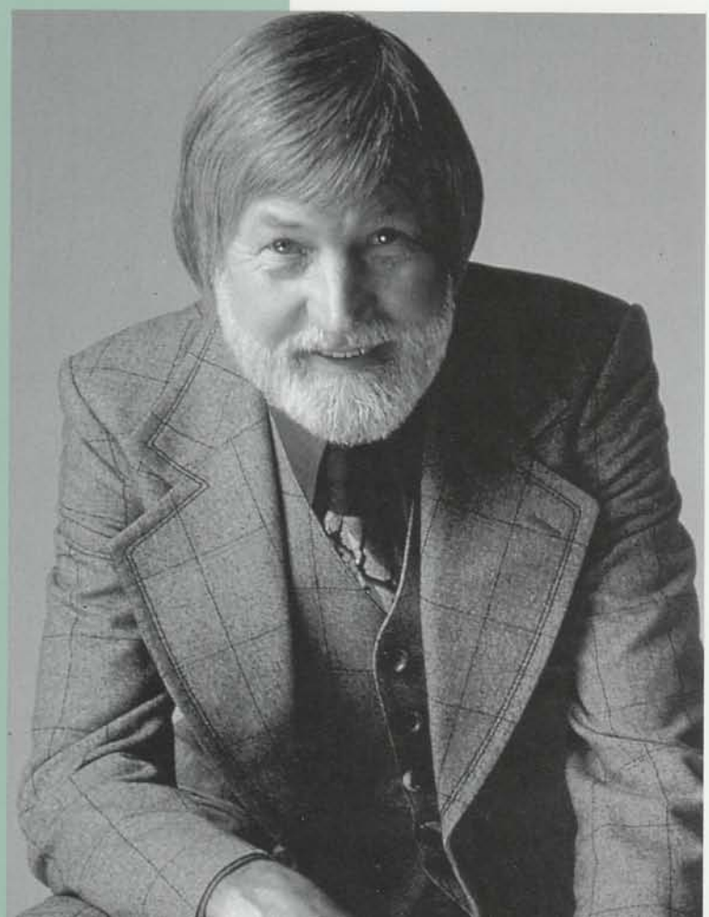
みんなを楽しくさせる ポップス界のサンタ・クロース レイ・コニフをご紹介します！

浅井 英雄
［音楽評論家］

レイ・コニフ シンガーズは、今から16年前の1975年6月に初めて日本へやって来ました。ステージから、『サンキュー、ドモドモ　コンバンワ、ヨクイラッシャイマシタ……』と、日本語で挨拶をしてくれた、あのレイ・コニフが、じつに久々に2度目の日本公演を行なっています。

即アメリカを感じさせる明快なサウンドとハッピーなムードで日本のファンを大いに楽しませてくれた16年前のステージが懐かしく思い出されてなりません。

と言っても、16年振りの来日ということもあって、若



いポップス・ファンの中には、『おなじみの……』と、ご紹介しても、もしかするとおなじみでない方もおいでになるかもしれません。そこで、改めてレイ・コニフをご紹介しておきたいと思います。

レイ・コニフは、シンガーズ&オーケストラの指揮者ですが、トロンボーン奏者であり、またアレンジャーであり、作曲家でもあります。

1916年11月6日に、ビー・ジーズのヒット曲でも知られるマサチューセッツはアテルボローで生まれました。

ピアノを弾く母親からも感化されたようですが、当地のバンド・リーダーでトロンボーン奏者でもあった父親から音楽を学び、ハイスクール時代にはローカル・バンドでトロンボーンを演奏するかたわら通信教育で編曲の勉強をしたと言います。

1930年代の中頃にボストンでダン・マーフィーのバンドに入り、プロ入りの第一歩を踏み出し、その後、バニー・ベリガンやボブ・クロスビーを経て、1941年にヴォーン・モンローのトロンボーン奏者および編曲者となり、さらに、アーティ・ショウのもとでは海軍バンドにも参加しました。

こうして、1930年代の中頃から第2次大戦中まで、さまざまなビッグ・バンドで活躍したレイ・コニフは、戦後、ハリー・ジェームス楽団のアレンジなどを手がけ、1940年代末にフリー・ランサーになったのです。

1954年にコロムビアへ入社し、そこでもドン・チェリー、ジョニー・レイ、ガイ・ミッチェル、フランキー・レイン、マーティ・ロビンス、ジョニー・マティスといったポップ・シンガーのために編曲を提供し、アレンジャーとして大いに才腕を振るいました。

1956年に、女性12名、男性13名からなるコーラスをオーケストラの中で器楽的にブレンドさせた「スワンダフル」が大ヒットし、レイ・コニフ シンガーズ誕生とともに、一躍人気グループになりました。

明るく、センスのいい、洒落たコニフ シンガーズはハッピーなムードでファンを楽しませてきたのです。

ところで、日本でも「スワンダフル」時代からレイ・コニフに注目し、ファンになられた方もおいでになると思いますが、彼コニフの名をポピュラーにしたのは、やはり「ララのテーマ」ではなかったでしょうか。今回のコンサートでも勿論うたわれますが、「ララのテーマ」は、ご存じのように1966年に日本で公開された映画「ドクトル・ジバゴ」の主題曲です。甘く憂いに満ちたモーリス・ジャールのメロディーに、「シークレット・ラヴ」「慕情」などのポール・フランシス・ウエブスターが歌詞をつけ、「サムホエア・マイ・ラヴ」という題の歌にし、それをレイ・コニフ シンガーズがうたって大ヒットさせ、ミリオン・セラーを記録しました。また1966年度グラミー賞のベスト・コーラス部門での受賞にも輝きました。

アメリカの放送局や雑誌などが「イージー・リスニング」という言葉を盛んに使い、それも定着した頃に人気を一段と高めていたのがレイ・コニフだったのです。

快いリズム、快適なサウンド、そして聴きやすい音楽。レイ・コニフの音楽はまさにイージー・リスニング・ミュージックそのものであると言えるでしょう。

最近では中南米でも大変人気があるようです。今回は、女性、男性それぞれ4名からなるシンガーズとオーケストラを率いての来日ですが、ブロードウェイ・ミュージカルのナンバーから、グレン・ミラー、ベニー・グッドマン、それにガーシュインやショパン・メロディー、またシーズンにふさわしいクリスマス・ソング、さらにシング・アロング・スタイルでみなさんにも参加していただくナンバーも用意されているようです。

町に木枯しの吹く季節に暖かな音楽の贈物。コンサート会場を大いに楽しませ、なごませ、くつろがせてくれるレイ・コニフの素晴らしいエンタテインメントをお楽しみください。

RAY CONNIFF
RAY CONNIFF
RAY CONNIFF

UBERT
EATRE
A
OR
IN
drink
od.
heory."

「あの頃、1975年と レイ・コニフ シンガーズ」

岡部 迪子
［音楽評論家］

レイ・コニフといえば、ジャズ・トロンボーン奏者ですぐれた編曲家としてのキャリアを積んだのちに、器楽をヴォーカライズしたコーラス編成を考えて、1956年にレイ・コニフ シンガーズを結成したポップス界の大御所である。ヒット・ナンバーも多いが、やはり国際的にレイ・コニフ シンガーズといえば“ララのテーマ”。あの映画「ドクトル・ジバゴ」の主題曲で、モーリス・ジャールがアカデミー・オリジナル作曲賞を受賞し、のちにポール・フランシス・ウエブスターが詞をつけて“サムホエア・マイ・ラヴ”とした名曲である。アメリカの音

楽界のふところの深さは、レイ・コニフ シンガーズひとつを採りあげてみても、かんたんに理解できるが、レイ・コニフ シンガーズは、大ざっぱに考えても30年は越える歴史を持つヴォーカル・グループなわけで、その間に何回かのメンバー・チェンジをくり返しながら、いつもフレッシュで爽やかな、若さあふれる魅力をたたえて現在に至っている。

そのレイ・コニフ シンガーズが、16年ぶり2度目の来日コンサートを、日本各地でくりひろげることになった。幕間の、ちょっとした読みものとして、16年前つまり1975年当時の、ポピュラー・ミュージック・シーンが、どんなヒット曲やアーティストによる流れであったか…を、この際ふり返ってみることにしよう。なにしろ'90年代の現在は、それまでオールディーズ・ファンの若い世代と言えば、'50年代〜'60年代どまりであったのに、今では圧倒的に'70年代に注目しはじめているほどである。

以下は、ビルボードのナンバー1ヒット1975年特集の内の代表的なものである。この年の超人気は、キャプテン&テニールのおしどりコンビによる“愛ある限り”が連続4週間ベスト1になり、兄妹デュオのカーペンターズが、“プリーズ・ミスター・ポストマン”を、そしてイーグルスの“呪われた夜”や、アース・ウインド&ファイアが、モーリス・ホワイトやフィリップ・ベイリーを中心にスケール大きく“シャイニング・スター”で大人気であった。ソロ・シンガーでは、デヴィッド・ボウイが“フェイム”で、バリー・マニロウが“哀しみのマンデイ”で、ジョン・デンバーが“わが友カリプソ号”で、'91年の今なお凄い人気と実力のエルトン・ジョンがビートルズ・ナンバー“ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウイズ・ダイヤモンズ”でビッグ・クリーン・ヒットしていた。そして、小鳥のさえずりをイントロに、チャーミングな歌“ラヴィング・ユー”を歌い、グラミー賞にかがやいた黒人女性歌手ミニー・リパートンは、のちに自分自信が「ガン」に犯されていることを知り、ガン予防キャンペーンに活躍しながら、若くして死んだ。この“ラヴイング・ユー”は、11月現在、民放テレビ・ドラマ「次男次女一人っ子物語」のタイトル・バック主題歌に使われている。

'75年の国際的ニュースといえば、人工衛星ソ連のソユーズとアメリカのアポロが宇宙でのドッキングに成功する快挙をなしとげたし、解放軍によるサイゴン陥落で長かったヴェトナム戦争も終結した。そして初の女性イギリス保守党党首にサッチャー女史が選ばれて、国際婦人年らしい話題となった。

この年レイ・コニフ シンガーズは、三船敏郎、デヴィッド・ニーヴン共演映画「ペーパータイガー」の主題歌を歌い、軽やかでパンチのきいたみずみずしい快唱で注目を浴び、その当時のイージー・リスニング界に活力をあたえたのである。もともとレイ・コニフ シンガーズは、昨今のラップだハウスだダンスだ…と飛んだりはねたりしながら歌うスタイルではなく、バランスのとれた混声コーラスで、美しく華やかに、総体的にはリラックスした爽やかさがグループ・カラーである。つねに「アップ・トウ・デイト」な今を生きるのが身上なので、本公演での、ヒット・ミュージカル集や、タイミング良いクリスマス・キャロルの数かずに、いぶし銀の円熟したレイ・コニフのアレンジの妙味が、いかに活かされるか？という点も、コンサートのききどころである。

それに'90年代は、ふたたびアコースティックな音色がリヴァイヴァルしてきているし、クラシック界でも古楽器ブームが世界的な傾向となり、ポップス界もワールド・ミュージックの人気と共に、ボーダレスは加速度に進んでいる。あれから16年、日本全国のヴォーカル・ファンは、ママさんコーラスに始まり、カラオケ・ブームもあって、天文学的にふえているばかりでなく、今や声を出して思いっきりのびのびと歌う楽しみは、わたくしたちの生活の一部になっている時代である。

むずかしいことを考えるより、この際リラックスして初心にかえり、ひとりのファンとして素直にレイ・コニフ シンガーズのコンサートを楽しむのが一番である。

RAY CONNIFF
his Singers & Orchestra

Conductor
Ray Conniff

指揮
レイ・コニフ

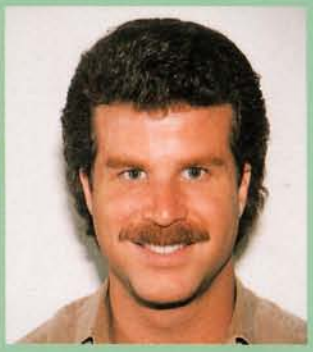
Manager/Director of Show **Earl Collier** ・アール・コリアー マネージャー/ショーディレクター

Orchestra
オーケストラ

Trumpet〔Premier〕**Rubin"Zeke"Zarchy** ・ルビン・ズィック・ザーチー トランペット(首席)
Trumpet **Laroon Holt** ・ラルーン・ホルト トランペット
Trumpet **Tim Rubottom** ・ティム・ルバトム トランペット
Trombone〔Lead〕**Denny Brunk** ・デニー・ブランク トロンボーン(リーダー)
Trombone **Wendell Kelly** ・ウエンデル・ケニー トロンボーン
Trombone〔Bass〕**Morris Repass** ・モリス・リペス トロンボーン(ベース)
Saxophone〔Premier・Alto〕**Fred Cooper** ・フレッド・クーパー サックス(首席・アルト)
Saxophone〔Alto〕**Lee Callet** ・リー・キャレット サックス(アルト)
Saxophone〔Tenor〕**Bob Hardaway** ・ボブ・ハーダウェイ サックス(テナー)
Saxophone〔Tenor〕**Lou Ciotti** ・ルー・チォッティ サックス(テナー)
Saxophone〔Baritone〕**Jennifer Hall** ・ジェニファー・ホール サックス(バリトン)
Drummer **Robert "Jerry" White** ・ロバート・ジェリー・ホワイト ドラム
Electric Bass **Ted Hughart** ・テッド・ハガート ベース
Percussion **Wally Snow** ・ウォーリー・スノウ パーカッション
Harp **Stephanie Bennett** ・ステファニー・ベネット ハープ
Piano **Perry La Marca** ・ペリー・ラ-マルカ ピアノ
Guitar **Barry Zweig** ・バリー・ツェイク ギター
Guitar & Banjo **Jim Hershman** ・ジム・ハーシュマン ギター&バンジョー

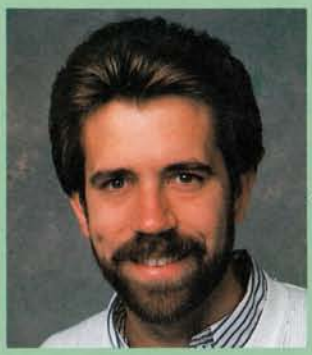
Singers
シンガーズ

Tenor
Scott Hoffman
スコット・ホフマン
テナー



Tenor
Troy Kennedy
トロイ・ケネディ
テナー

Baritone
David Theriault
デビッド・セリオールト
バリトン



Baritone
Charles McMurray
チャールズ・マクマリー
バリトン

Soprano
Lavra Tafel Savitz
ローラ・タッフェル・シャヴィッツ
ソプラノ

Soprano
Frances Sparks Logan
フランシス・スパークス・ローガン
ソプラノ

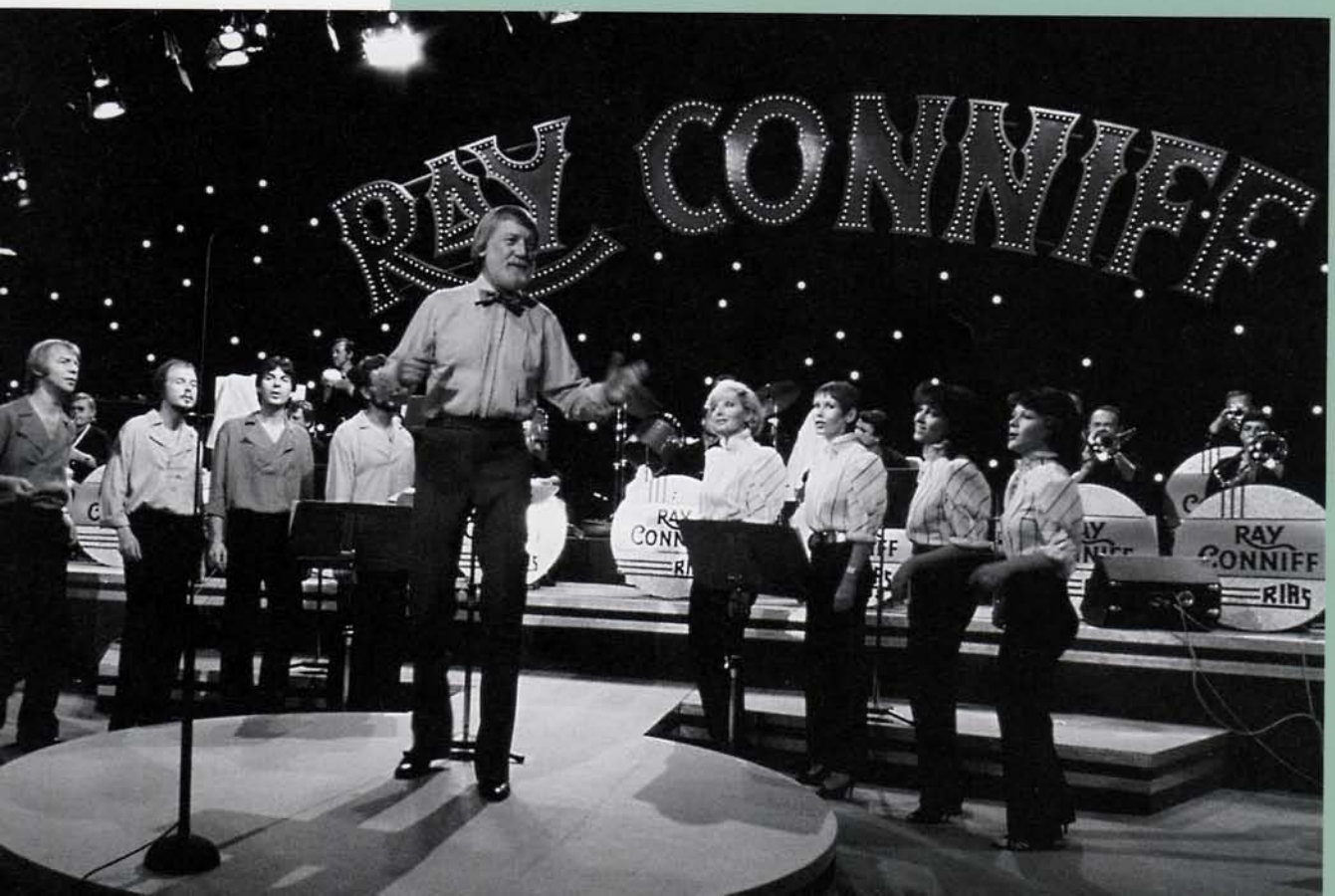
Alto
Erin Theriault
エリン・セリオールト
アルト

Alto
Lisa Semko
リサ・センコ
アルト

私がレイ・コニフサウンドと出合った時

鈴木 智雄
［日本公演音楽監督］

レイ・コニフ　シンガーズが初来日した1975年、当時私は28歳でした。25歳からレコーディングエンジニアとして仕事を始め、国内での歌謡曲や、海外のアーティストージェフ・ベック、シカゴ、サンタナ、マイルス・デイビス等、いくつかのヒット曲を録音し、ちょっと自信のついた頃のことです。レイ・コニフ　シンガーズのハッピーなサウンドは知っていましたが、ロックが音楽の中心的な時代で、音作り（ミキシング技術）もロックに興味をもっていました。それまでコーラスとビッグ・バンドとの組合せにはあまり縁がなく、勉強不足のままリハーサルにのぞみました。リハーサルの行なわれている東京厚生年金会館大ホールで私が見たのは、いつ終るとも知れず繰り返されるリハーサルの様子です。人の動き、



ライティング、サウンド、すべてに対して細かな指示が有り、出来るまで何回もおこなわれておりました。私はアメリカのショービジネスの厳しさを見た思いとともに、たいへんな人と仕事をする事になったと思いました。

ライブ録音には、16チャンネルのマルチトラックのテープレコーダーを使用していました。(マルチトラックの録音とは、録音時に16トラックの各々1つずつにドラム、ギター、男性コーラス、女性コーラス、トランペット.etcなど別々に分けて録音をし、後日スタジオでバランスをとり普通のステレオにミックスします。これらの作業を経て、レコード音楽として成り立つのです。) レイ・コニフ氏とこのトラック分けの綿密な打ち合せをした後、大阪と東京で録音を行なう事になりました。ライブ録音の為のサウンド・チェックは、普通ステージ・リハーサルもかねて1時間位なのですが、レイ・コニフ氏はより完璧なステージを求め、毎公演ごとに長時間のステージリハーサルを行なっていました。コーラスとフルバンドの組合せという経験した事のない録音をする私に取って、これは各楽器のバランスをとるうえでたいへん助かったものです。さていよいよ本番、この時録音しながら感心した事は、レイ・コニフ氏の指揮の素晴らしさとメンバーひとりひとりの笑顔についてでした。私は、緊張しながらもお客様のように楽しみ、ライブ録音が終った時には、本当に幸せな気持ちになっていたのです。

録音も無事終了、ミックスダウンの当日、私はレイ・コニフ　サウンドが本当に私に出来るのか、いや作らねばならないと思いながらひとりで作業をしておりました。数時間たった時にレイ・コニフ氏が立ち合いにきて下さいました。しかし、ミックスダウンされて行く音楽を聞いている彼の顔には、不満がはっきりとあらわれていたのです。私はどの様にすればレイ・コニフ サウンドになるのか彼に尋ねました。彼の口から出てきたのは、本当に細かな指摘の数々でした。例えば、男性コーラスとトロンボーンのバランス、女性コーラスとトランペットのバランス、男女コーラスがブラスセクションと同じメロディーを歌っている時に、サキソフォーンが演奏するもうひとつのメロディーとのバランス、コーラスの中のバランスはもちろん、歌詞の時とスキャットの部分の言葉のバランス、それらは、私の持っている物差しが全く使いものにならないことばかりでした。私はなんとか満足のいく音にしなければと冷や汗をかきながらミックスダウンを続け、ようやくバランスがとれた時、それは本物のレイ・コニフ　サウンドになっていたのです。トランペットと女性コーラスが重なる事により、トランペットに明るさがプラスされ、女性の声は輝きを出すのです。男性コーラスは、トロンボーンと重なり合った時より力強くなり、トロンボーンはいきいきとしてきます。楽器が歌詞を歌うように聞こえてくるのです。この様にして充分に工夫された各部分が交ざり合うことにより、全体が明るくいきいきとしたハッピーなレイ・コニフ　サウンドが生まれてくるのです。そうやって全22曲のミックスダウンが終った頃には、レイ・コニフ氏の音楽の秘密がわかる様な気がしたものです。

素晴らしい音楽を作り出すレイ・コニフ氏は、音楽的なバランスを完璧に求める事はもちろん、辛抱強く努力を惜しまず、仕事の評価を正しく言ってくれる、きびしくもやさしい人でした。彼と出会い多くを勉強させていただけた事が、その後の私のレコーディングエンジニアとしての仕事に、大きな影響と自信をくれた事は言うまでもありません。今回の来日公演にサウンドエンジニアとして指名していただきたいへんに光栄に思っています。

聞く人を明るくハッピーな気分にさせてくれる、レイ・コニフ氏の素敵な音楽をお客様に楽しんでいただくお手伝いが出来ればより幸いと思っています。

音楽監督・鈴木智雄
舞台美術・監督・キュリオシティ　今野公基
音響・オープンロード 堀田恭司
照明・TIP 水谷輝彦
通訳・ジェイ・エル・エス

楽器提供・レオ・ミュージック
装置・楽器輸送・ロンド
ツアーコーディネイト・JR九州

プログラムデザイン・本地陽彦
写真提供・レイ・コニフ
ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
制作・平山アート・オフィス
印刷・マルス

企画・ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
招聘・提供・平山アート・オフィス

Ray Conniff

来日記念盤

『PLAYS BRODWAY/プレイズ・ブロードウェイ』(SRCS-5660)

ブロードウェイ・ミュージカルの魅力が一杯!

収録曲: 1.オペラ座の怪人(from"オペラ座の怪人")
2.オン・マイ・オウン(from"レ・ミゼラブル")
3.ワン(from"コーラス・ライン")
4.オール・アイ・アスク・オブ・ユー(from"オペラ座の怪人")
5.ララバイ・オブ・ブロードウェイ(from"42ndストリート")
6.メモリー(from"キャッツ")
7.ザ・ベスト・オブ・タイム(from"La Cage Aux Folles")
8.ザ・ミュージック・オブ・ザ・ナイト(from"オペラ座の怪人")
9.エニシング・ゴーズ(from"エニシング・ゴーズ")
10.シンク・オブ・ミー(from"オペラ座の怪人")

☆日本のみのオリジナル企画によるレイ・コニフ・ベストの決定盤。第1集。

『THE BEST VOL. 1 PLAYS STANDARDS/ ザ・ベストVOL. 1 プレイズ・スタンダーズ』(SRCS-5658)

ステージの感動をそのままに。往年のスタンダード・ナンバーで綴るレイ・コニフの華麗なサウンド・マジック・ヒストリー。(監修:青木啓)

収録曲: 1.ス・ワンダフル
2.スターダスト
3.ビギン・ザ・ビギン
4.アイム・オールド・カウハンド
5.セプテンバー・ソング
6.センチメンタル・ジャーニー
7.煙が目に染みる
8.今宵の君は
9.ムーンライト・セレナーデ
10.イン・ザ・ムード
11.時の過ぎゆくままに
12.誰かが私を見つめてる
13.いつかどこかで
14.オクラホマ
15.マイ・フェイバリット・シングス
16.君住む街角
17.ベサメ・ムーチョ
18.ブラジル
19.アンチェインド・メロディー
20.想い出はかくの如く

☆日本のみのオリジナル企画によるレイ・コニフ・ベストの決定盤。第2集。

『THE BEST VOL. 2 PLAYS CONTEMPORALY/ ザ・ベストVOL. 2 プレイズ・コンテンポラリー』(SRCS-5659)

ビートルズ、サイモン&ガーファンクル、カーペンターズ、スティービー・ワンダー等のヒット・ナンバー、そして『追憶』『ゴッドファーザー』『スター誕生』といった映画音楽の数々による青春のコンテンポラリー・ヒット・メドレー。(監修:青木啓)

収録曲: 1.ララのテーマ
2.ムーン・リバー
3.イエスタディ
4.レット・イット・ビー
5.明日に架ける橋
6.雨にぬれても
7.ある愛の詩
8.ゴッドファーザー"愛のテーマ"
9.シング
10.イエスタディ・ワンス・モア
11.エンターテイナー
12.追憶
13.フィーリング
14.哀しみのマンディ
15.スター誕生の愛のテーマ
16.恋のナイト・フィーバー～ステイン・アライブ
17.素顔のままで
18.ハロー
19.心の愛
20.ニューヨーク,ニューヨーク

DAYCONFE

平山アート・オフィス